

2010年度 春の沢集中

奥多摩 大洞水系

荒沢谷～桂谷

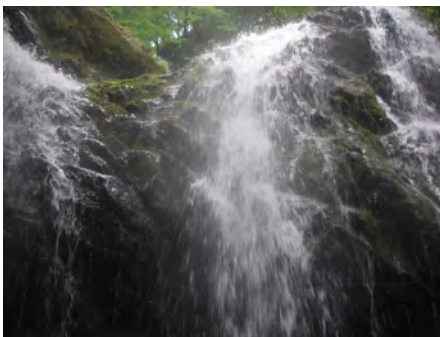
～アシ沢・桂谷中間尾根下山

└新井、SL 田中 釣、木下、志満（記）

何年ぶりだろうか木下さんと山行を共にするのは・・・思い出せないくらい久しぶり。釣さんとも随分ご無沙汰だったかな。楽しいメンバーが揃い賑やかな山行に期待がふくらむ。

6月5日（土曜）

車を停めた荒沢橋脇から入渓、ところどころのワイヤーがうるさいものの透明度の高い水を軽い足取りで沢ハイクを楽しむ。歩き始めて40分で桂谷出合到着！桂谷に入ってしまうと岩魚もいなくなるので「夜の食材を釣ってきてね！」と2名の釣り師を送り出す。その間、私は木下さんと雑談し釣さんはこの寒い中、爆睡 zzz……。1時間程で田中さんが2匹の岩魚をゲットして戻ってきた。やったね！



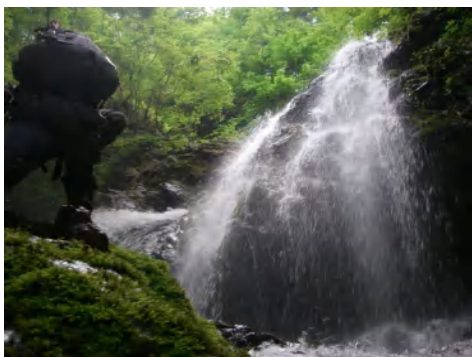
6m 滝と4m 滝をかるくかわすとゴー口がしばらく続く。この辺りは倒木が多くかなり荒れていた。倒木を平行棒

の用にバランスを取りながら渡り、乗り越え、くぐり、器械体操のように舞う。突如、目の前に斜瀑の15m滝が現れた。やはり水量が多いのか豪快に水が落ちていて、壁はツルツルだし近寄ることすら出来ない。ここは観賞滝ということで右岸のルンゼから巻きに入る。這い上がってから足元不安定な所を怖々トラバースし、沢床へは懸垂で降りた。振り返るとここの巻きが核心だった言えよう。ハイライトである30mの6段滝が出てくる。本当に6段あったのかどうかは疑問であったが、とにかく私は濡れたくない一心で水のあたらないポイントを選びながら抜けていく。登攀好きな木下さんは、私とは対照的に滝に立ち向かっていく。年齢を重ねても闘争心は以前と変わらずだ。釣さんと言えば・・・常に喫煙タイム。



二俣を過ぎてからはビバークポイントを探しながら歩くが適地がなかなか見つからない。結局、予定よりかなり上の1380mあたりでビバークと相成なる。薪も豊富に集まり早い時間から宴。釣さんは爆睡タイム！久々釣さん

と一緒にと言うのに、寝ているかタバコかでなかなかゆっくりと話せないのが残念だ。岩魚は遠火でじっくり焼き、釣さんがいないのを良いことに4人で半身ずつ食べた。旨っ！田中さんお手製のごはんが出来たので、釣さんを起こしたけれど食べ終わるとまたすぐに寢床へ（寝る子は育つ？）



6月6日（日曜）

朝食は木下さん60ウオにして初のリゾートを食す。初体験のお味は？

テン場からは滝らしい滝もなく、岩小屋になりそうな巨岩が現れここから伏流となった。上流のいくつかの分岐はいずれも左へ入り、岩峰が右手にある標高1,750mあたりから左の小尾根に取り付く。



<大岩デカっ！>

しばらく歩くと芋ノ木ドッケの巻き道である登山道にひょっこりと出たおつかれさま。コルで春の日差しを浴びながら1時間近くのんびりしてから雲取山へ。集合場所の避難小屋ではみんなの笑顔が待っていた。この笑顔が沢集中の一番の楽しみなのだ。みんな良い笑顔だね♪



<桂谷メンバー全員でハイ！ポーズ>

帰りは登山道ではないアシ沢・桂谷中間尾根を下る。ここは藪がほとんどなく歩きやすく、ルートはGPS任せで一気に降りる。荒沢にぶつくと沢靴に履き替え沢下降して終了。リーダー初体験の新井さんお疲れ様でした。楽しかったのはリーダーのお・か・げです☆

<コースタイム>

6/5 8:15 荒沢橋P発～8:50 桂谷出合（釣り1H）～12:00 二俣～1:35 テン場

6/6 7:15 テン場発～、9:00 芋ノ木ドッケ付近登山道～9:15（大休憩45分）10:05 発～11:30 雲取山避難小屋 12:25 発～13:00 アシ沢・桂谷中間尾根下山開始～14:25 荒沢谷～15:20 荒沢橋P

<地形図>雲取山、丹波